

プログラム

- 12:00 開場
- 13:00-13:05 開会 総合司会:中村晋也(金沢学院大学)
- 13:05-13:10 開会挨拶 三浦定俊(文化財保存修復学会理事長)
- 13:05-13:10 対談講師の紹介
- 13:15-14:15 対談「未来へ伝える文化財防災」
平川 新(宮城学院女子大学学長) × 森田 稔(九州国立博物館名誉館員)
- 14:15-14:30 休憩
- 14:30-14:50 講演「地域歴史資料と災害対策～宮城歴史資料保全ネットワークの取り組みから考える～」
天野真志(東北大学)
- 14:50-15:10 講演「被災文化財を伝える～宮城県の現状と東北歴史博物館の取り組み～」
小谷竜介(東北歴史博物館)
- 15:10-15:30 講演「文化財防災ネットワークの構築を目指す」
和田 浩(東京国立博物館)
- 15:30-15:40 休憩
- 15:40-16:20 パネルディスカッション「東日本大震災で被災した文化財を考える」
コーディネーター:日高真吾(国立民族学博物館)
パネラー:天野真志(東北大学) × 小谷竜介(東北歴史博物館) × 和田 浩(東京国立博物館)
- 16:20-16:25 閉会挨拶 本田光子(文化財保存修復学会副理事長)

平成27年12月19日(土)

13時—16時25分(開場12時)

東北歴史博物館(宮城県多賀城市 JR東北本線国府多賀城駅隣)

[定員]280名/参加費無料/(要事前申込み)

主催:一般社団法人 文化財保存修復学会

共催:東北歴史博物館

後援:文化庁、日本文化財科学会、東北大学災害科学国際研究所、宮城県被災文化財等保全連絡会議、
特定非営利活動法人 宮城歴史資料保全ネットワーク、一般社団法人 国宝修理装演師連盟、読売新聞社

お問合せ先:022-368-0106(東北歴史博物館情報サービス班)

文化財を伝える

—東日本大震災で被災した文化財を考える—

2011年に未曾有の被害をおこした東日本大震災は、地域に根ざした文化財にも大きな被害をもたらしました。文化財保存修復学会は、被災地支援の観点から、研究対象とする文化財に着目し、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会の構成団体のひとつとして、文化財レスキュー事業に参加し、多くの学会員が被災地に赴いて文化財の救出・一時保管・応急措置の作業に携わってきました。また、劣化損傷が著しく、本格的な保存修復処置が必要な文化財については、その文化財の保存修復を専門とする会員を派遣し、修復設計を実施するなどの支援もあわせて展開しています。これら一連の支援活動は、文化財保存修復学会が阪神・淡路大震災以降、災害対策調査部会を設置し、被災した文化財の支援活動を20年にわたって実践してきた経験に裏打ちされたものです。

そこで、本シンポジウムでは、東日本大震災で文化財レスキューされた被災文化財の「その後」に注目します。ここでは、文化財レスキューされた多くの文化財が地域復興にどのように関わりをもっているのか、あるいは地域再生のためにどのように活用されるべきなのかについて参加者の方々とともに考える機会となることを期待します。



東日本大震災で被災した文化財を考える
文化財を伝える



平川 新

宮城学院女子大学学長、東北大学名誉教授
東北大学文学研究科博士課程中退(1981)。
博士(文学)。東北大学文学部助手、同東北ア
ジア研究センター長、同災害科学国際研究所長
などを経て現職。主な著書・編著に、『通説を見
直す-16~19世紀の日本』(2015)、『江戸時代
の政治と地域社会』全2巻(2015)、『講座東北
の歴史』第2巻(共編、2014)、『東日本大震災
を分析する』全2巻(共編、2013年)、『歴史遺
産を未来へ』(共編、2011)、『開国への道』
(2008)、『近世日本の交通と地域経済』
(1997)、『紛争と世論』(1996)などがある。



森田 稔

九州国立博物館名誉館員、一般財団法人環境
文化創造研究所理事
名古屋大学大学院文学研究科博士(前期)課程
修了(1980)。神戸市立博物館学芸員、文化庁
文化財部美術学芸課主任文化財調査官、京都
国立博物館学芸課長、九州国立博物館学芸部
長、副館長を経て2014年より九州国立博物館
名誉館員、一般財団法人環境文化創造研究所
理事を務める。著書に『アジア陶芸史』(共著 昭
和堂 2001)、共編著に『考古資料大観6 弥生・
古墳 青銅・ガラス製品』(小学館 2003)、『私た
ちの文化財を救え!!』(クパプロ2007)がある。



天野 真志

東北大学大学院文学研究科博士後期課程単
位取得退学(2010年)。博士(文学、東北大学
2011)。東北大学東北アジア研究センター教
育研究支援者を経て、現在東北大学災害科学
国際研究所助教。主な論文に『歴史資料の津波
被害と保全対策』、『古文書研究』75、2013)、
『津波被災歴史資料とボランティア』(奥村弘編
『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学
の構築』東京大学出版会、2014)などがある。



小谷 竜介

埼玉大学大学院文化科学研究科修了
(1997)。修士(文化科学)。宮城県教育庁文化
財保護課勤務を経て、現在、東北歴史博物館学
芸員。主な著書に『鮭〜秋味を末人々』(2003)
がある。



和田 浩

東京国立博物館学芸研究部保存修復課環境
保存室長
京都大学大学院人間・環境学研究科修士課
程修了後、南開大学(中国・天津市)へ留学。
2000年より東京国立博物館に所属。博物館
の収蔵環境、展示環境、輸送環境に関する計
測、解析、改善計画立案と現場管理を主な業
務として活動を続けている。



日高 真吾

東海大学文学部史学科日本史学専攻卒業
(1994)。博士(文学)(東海大学2006)。元興
寺文化財研究所研究員を経て、2000年より国
立民族学博物館助手。現在、国立民族学博物
館文化資源研究センター准教授。主な著書に
『災害と文化財』(千里文化財団 2015)、『女乗
物 その発生経緯と装飾性』(東海大学出版会
2008)、編著書に『記憶をつなぐ一津波被害と
文化遺産』(千里文化財団 2012)、『博物館へ
の挑戦-何がどこまでできたのか-』園田直子と
共編(三好企画 2008)がある。

実行委員会

実行委員長 : 三浦定俊(文化財保存修復学会理事長)

副実行委員長 : 本田光子(文化財保存修復学会副理事長)

実行委員 : 荒井経(東京藝術大学)、内田俊秀(京都造形芸術大学)、岡泰央(国宝修理装演師連盟)、加藤和歳(九州歴史資料館)、小谷竜介(東北歴史博物館)、佐野千絵(東京文化財研究所)、田井東浩平(土佐山内家宝物資料館)、中村晋也(金沢学院大学)、日高真吾(国立民族学博物館)、間淵創(三重県総合博物館)、米村祥央(東北芸術工科大学)、和田浩(東京国立博物館)

申し込み
方法

下記、EメールアドレスもしくはFAXにて必要事項を記入の上、申し込みください

Eメールアドレス : thm-service@pref.miyagi.jp

FAX : 022-368-0109 (東北歴史博物館学芸部小谷あてでお願いします)

電話 : 022-368-0106

申し込み時 ◆お名前(漢字、ふり仮名) ◆連絡先住所 ◆電話番号 ◆FAX番号 ◆Eメールアドレス
必要記入事項 ◆所 属(勤務先もしくは学校名)

※参加申込にてご提供いただきました個人情報、本シンポジウムの受付と統計・分析および関連イベントの
ご案内以外には使用いたしません。

FAX申込書〔022-368-0109〕

ふりがな
氏 名

ご住所(勤務先・自宅)

〒

電話番号

所 属(勤務先もしくは学校名)

E-mail アドレス

@